NOW IS.

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

2018.5.11
Vol. 25
May, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

馬場裕之・in 仙台市

撮影地：仙台市 荒浜

若手パワーで笑顔をサポート！

東北学院大学
災害ボランティアステーションのみなさんと

仙台市民の生活を守った知られざる職員のエピソード

できる角度で、ずっと手助けしたい。ロバート馬場さんと8年目の仙台市へ。

5月は杜の都・仙台が最も輝く季節。新緑を車窓から眺めつつ、お笑いトリオ「ロバート」の馬場裕之さんと仙台市の沿岸部に向かいました。馬場さんは2016年から「農業で住みます芸人ｉｎ仙台」の若手とともに、仙台市太白区坪沼地区で農地を借り受け「ロバート馬場農園」を開いています。宮城に何度も通うようになったものの、沿岸部には足を運んでいなかったといいます。「被災地には震災の1年後くらいに訪れて、子どもたちに向けたお笑いライブをしました。今どんなふうになっているのか気になっています」。

南蒲生浄化センターでは、震災からの復興を紹介する映像を放映しています。施設見学も可能。

はじめに訪れたのは、「南蒲生浄化センター」。仙台市内の汚水の約7割を処理する施設ですが、津波で壊滅的な被害を受けました。「職員全員で屋上に避難しました。何度も津波が押し寄せて怖かった。第2波が一番高かった」と話すのは、40年間勤務している菅野清司さん。寒い夜を過ごし、朝になって最初にしたことは、海に続く下水の水門を手動で開けることでした。「阪神淡路大震災の時、現地の下水処理が機能停止し、復旧までに時間がかかったことを覚えていたので、一刻も早く水門を開けようと考えました。そうしなければ、汚水が市内にあふれてしまうからです。まだ大津波警報が出ていたので、地震が起きたらすぐ逃げると決め、重い水門を少しずつ、何時間もかけて手動で回し続けました」。と、菅野さんは水門のそばまで案内してくれました。目の前は海。建物は窓が割れ、水圧で壁は大きくゆがんでいます。当時の様子を残す建物を見上げ、馬場さんは感慨深い様子。浄化センターは通常5年かかる工事を3年で終わらせ、新しい処理場を完成させました。「私たちの責任は海に対してもあるんです」と菅野さん。「だから汚水を海に流すのは苦渋の選択でした。でも、皆が尽力して短期間で復旧できました」と話します。「東京にいると、3.11以外の日は、ああ震災、あったね、という感じ。でも、あの時のことを伝える人がいて、傷跡がまだ残っている。菅野さんたちが成し遂げたことって、初めて知ったけど重要なことですよね。実際に見られてよかったです」。そう馬場さんは語りました。

南蒲生浄化センターの第三ポンプ場で
「2012年に来た時に見た景色が、まだ残っているんだと驚きました。こういうの、知るべきですね」と馬場さん。

ロバート馬場農園のみなさん　「坪沼の米はほんとにうまい！みんな食べて！」と口々に話します。

若者が行くと地域はもっと元気になる。

一行は海から山へ。開園3年目を迎える「ロバート馬場農園」に向かいました。現地では坪沼地区に住む後輩芸人がお出迎え。「植えてほしい種、持って来たんだ」と荷物を探す馬場さんに「急だな！」「今度はなんですか！」と軽快なツッコミ。「田んぼでプロレスしたり、地域の人たちと仲良くなれるのが楽しいです。若い人が少ないこともあって、息子みたいに良くしてくれるし。来てくれてよかったって言ってもらえるのが、とてもうれしい」。

最後に訪れたのは、震災直後から活動を続けている「東北学院大学」の災害ボランティアステーション。大学2〜3年生の学生さん3人に話を聞きました。公営住宅で交流会をしたり、お年寄りが多い地域で草むしりをしたり。漁師の仕事を手伝ったことも。7年が経ち、支援の方法は変わってきていると言います。「被災地はどこに行っても人手不足です。『来てくれてうれしい』『学生さんが来ると活気が出る』と言ってもらえます。私たちがやっているのは復興に関するボランティア活動ですが、もし震災がなくても、こういう活動が必要だったんだと気づきました」と。震災の時は小学生だったという学生さんの一人はそう話します。「ボランティア活動を通じて、地域に対する気持ちが変わった」という学生さんも。「普段は見えない人たちの生活を知ることができ、今後も地域を活性化できるような取り組みをしていきたいと思うようになりました」。

東北学院大学にて、馬場さんに「震災の時は小・中学生だったけど、もっと下の世代は、震災への興味自体薄れてる。自分が被災地で気づいたことを伝えたいです」と話す学生さんたち。

馬場さんは「偉いなあ」と感心した様子。「学生さんでも県外の人でも、できることってある。僕も農園を始めて宮城の食材がおいしいことに気づいたから、それをいろんなメディアで話したいですし、住みます芸人にも地域を盛り上げてほしい。できることでいいと思うんです。できる角度から笑顔をサポートしたいです」。丁寧に言葉を探す馬場さん。最後に「僕は、そうですね、お笑い、ではなく、料理で、盛り上げたいですかね」といたずらっ子のように話してくれました。

沼田佐和子

PROFILE

馬場 裕之
ばば　ひろゆき

1979年、福岡県北九州市出身。お笑いトリオ「ロバート」のメンバー。料理愛好家としても知られ、2013年にはレシピ本『ロバート馬場ちゃんの毎日毎日おいしい本』を出版した。宮城のテレビ番組では料理コーナーを担当している。

仙台 DAY OUT

SENDAI

仙台で休日を

仙台市東部沿岸地区は、「仙台うみの杜水族館」などの観光施設のほか、「震災遺構仙台市立荒浜小学校」をはじめ、「せんだい3.11メモリアル交流館」や慰霊碑など、震災の記憶を伝承する施設が点在しています。観光の合間にぜひ訪れてみてください。

南蒲生浄化センター

仙台市内の汚水の約7割を処理している南蒲生浄化センターは、震災で壊滅的な被害を受けました。2016年4月に新設した汚水処理場は、震災時の津波の高さまでかさ上げすることで防災機能を高め、太陽光発電設備の設置により、災害などで電源が喪失した際にも必要最小限の処理が可能となるよう工夫されています。

東北学院大学 災害ボランティアステーション

地域情報を集約・共有し、支援を必要とする人に大学生・教職員が直接支援するとともに、市町村災害ボランティアセンターや全国の大学と連携し、被災地支援のための活動を中継・展開。学生にボランティアという新しい学び・成長の場を提供しています。

荒浜記憶の鐘

東日本大震災の津波で、甚大な被害を受けた荒浜地区の犠牲者の追悼と、復興への願いが込められたモニュメント。荒浜を忘れないという思いを込め、人物をかたどり過去から未来を作り上げていく復興の願いを表現しています。

せんだい農業園芸センター

「農とふれあう交流拠点」をコンセプトに、農の普及を主軸としたイベントや体験プログラム、市民農園の運営を行うほか、地域住民と連携しながらオリジナル商品の開発や施設外での販売を行うなど6次産業化への取り組みも行っています。また四季折々の花々を鑑賞でき、5月はバラ祭りが開催される予定です。

取材こぼれ話 VOICE FROM STAFF

うどんフォー

料理が得意な馬場さんが中心となってアイデアを出し、開発したという仙台市坪沼産の米粉を使った「うどんフォー」。2018年4月から販売が開始されました。米粉の甘みとツルツルとした食感が特徴の麺は、小麦粉と米粉の配合や割合を何度も変えて試作を繰り返したそうです。セットのスープは、鶏と野菜のダシに魚醤を加え、コクがありながらもさわやかなアジアン風味。これからの暑い時期におすすめです。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む） 10,565人 ｜ 行方不明者数 1,224人　2018年3月31日現在宮城県危機対策課調べ

Support Power

the 応援職員

NOW IS. 東松島 Higashi Matsushima

PROFILE

東松島市 復興政策部 復興都市計画課 都市整備班

熊谷（くまがい） 健治（けんじ） さん

仙台市より東松島市に派遣

東松島市の発展につなげられたら。

地元野菜を使った郷土料理を提供する農家レストラン「和花の里」は熊谷さんおすすめのお店です。

野蒜地区の石を使用した蔵を復興祈念公園の一部として整備しています。

仙台市では、県内被災地の早期復旧を支援するため、2012年から石巻市に職員を派遣しており、2015年からは他の県内被災市町にも職員を派遣しています。仙台市は復旧のスピードが早かったものの、他の地域はまだ多くの復興事業が進行中です。少しでも力になれたらと思い希望を出し、1年後に叶いました」。そう話すのは、2016年4月から東松島市に派遣された仙台市職員の熊谷さん。仙台港の土地区画整理事業や東部復興道路の建設に携わり、現在は復興都市計画課の都市整備班に所属しています。移転元地の利用促進造成工事やコミュニティ広場の造成工事などの現場管理を担当しています。「派遣前は道路という1本の道でしたので、点での視点でしたが、東松島市ではさまざまな場所を整備しているので、面でとらえて全体の事業を把握します。教わることも多く、とてもやりがいを感じています」。

派遣されるまでは、あまり東松島市を訪れる機会がなかったという熊谷さん。派遣された当初、他の派遣職員と遊覧船で嵯峨渓を見に行き、感動したそうです。「東松島市は、奥松島の美しい景観、牡蠣や海苔、有機野菜などのグルメや魅力がたくさんあることを再発見しました」。野蒜地区に関しては、高台に集団移転した新野蒜駅周辺から、旧野蒜駅まで周遊できるサイクルロードを整備したり、移転元地にコミュニティ広場を整備したり、野蒜海岸の海水浴場再整備するなど、住民との対話を活かしながら、観光に絡めた利用計画を進めています。「東松島市のいいところを、たくさんの人に知ってもらいたいですね」。

宮城県では震災復興計画を2020年までの10年間として進めており、今年度から最終段階の「発展期」が始まります。整備を進めてきた復興まちづくりも総仕上げに向けたラストスパートに入ります。「私たち行政は街の下地作りをしています。住民のみなさんや街に関わる民間企業の方々が発展につなげていけるよう、裏方として応援していけたらと思っています」。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

せんだい3.11メモリアル交流館

さまざまな視点から震災を伝える「せんだい3.11メモリアル交流館」のイベントをお知らせします。

■写真展「MIYAGI 1951 ～米軍医のまなざし、戦後6年の沿岸部～」
2018年5月1日（火）～8月26日（日）
■関連企画　ライブトーク「アラン・バトラーさんを迎えて」
2018年5月19日（土）14:00～16:00
■関連企画　館長トーク＆スライド喫茶室「仙台・石巻物語」
2018年7月21日（土）14:00～16:00
■被災者支援23年・活動事例写真展「あなたにも出来る被災者支援」
2018年6月20日（水）～7月1日（日）
詳しくはHPをご覧ください。http://sendai311-memorial.jp/

BLUE LEAF CAFEマルシェ（毎月第3木曜日開催）

2017年5月、㈱KDDIエボルバが「幸満つる郷 KDDIエボルバ野蒜」事業所を開設。東松島市の被災元地を活用して、地元の障がい者を雇用し農産物を栽培しています。毎月第3木曜は、仙台市内の一番町にある「BLUE LEAF CAFÉ」でマルシェを開催。この機会にぜひ訪れてみてください。

●日時：毎月第3木曜、11:30～17:00
●場所：宮城県仙台市青葉区一番町3-8-8 一番町stear
http://blueleafcafe.jp/

今月のガイド

MONTHLY GUIDE

仙台市
建設局 下水道事業部
南蒲生浄化センター 業務係 主査

菅野（かんの） 清司（せいじ） さん

「私の目線は常に海を向いています。自然に悪い影響を与えないように汚水処理をすることが自分たちの使命です」。そう話すのは、下水事業に携わり来年で40年になる菅野さん。

震災時、下水の水門は閉じており、放流しないと仙台市内の下水道が汚水で溢れて使えなくなってしまう危機に直面していました。震災翌日の大津波警報が解除されていない中、命がけで水門を開けに向かいました。南蒲生浄化センターでは、当時のビデオ上映や職員の体験談、再建された施設の見学ができます。「培ってきた技術も含めて、震災の記憶も語り継いでいきたい」と、菅野さんは話してくれました。

震災前の街、避難、避難生活。自分が見てきたことを持ち帰ってほしい。

（上）案内をする菊地さん。会社の研修会などで利用する人も多いそう。
（左）語り部タクシーとして運行するクルマには、目印のステッカーが。
（右）語り部タクシーの運転手に向けた講習を行い、最新の情報も共有します。

数字や情報だけではなく実感してもらうための語りを

震災の前、菊地さんの家は岩沼市玉浦地区にありました。町内会にも積極的に関わり、当時は役員をしていたそうです。「妻と娘を小学校に避難させた際、集まっている人の顔ぶれを見たら、まだ来てない人がいたので、町内に戻って呼びかけました。何軒目かの家を出て、ふと海のほうをみたら、津波がひたひた来ているのが見えました」。菊地さんは急いで車に乗り、避難所に向かいます。1kmほど走ったところで振り返ると、町内はすでに黒い水の中だったそうです。家は2階部分まで浸水し、1階部分は大破。住み慣れた街は見る影もない状態でした。

菊地さんはタクシーに乗った人に、その時見た風景をありのまま伝えていきたいと考えています。「もちろんがれきは撤去されましたし、かさ上げ工事や公園を整備しているところもあります。自分は見ているから分かりますが、初めて来た人はピンとこないと思うんです」。分かりやすく説明するため、菊地さんは震災前と震災直後の航空写真を使っています。「荒浜だったら、震災前は森みたいな松林があって、こんなに住宅があったんですよ、と見せる。そのあと、震災直後の写真を見せる。それから今の風景を見てもらう。何メートルの津波が来て、何人が亡くなって、という説明だけにこだわらず、どういう街だったかということを説明するようにしています」。

避難の方法やその後の生活も紹介していきたい。

菊地さんが工夫していることは、もうひとつあります。避難の方法や、避難所での生活を語ることです。

菊地さんは、被災した後、数か月避難所で生活し、その後仮設住宅に入りました。「避難所はトイレの管理が一番大変だった、とか、集団生活になじめる人となじめない人がいた、など。自分は、避難所の運営や移転の会議にもずっと関わっていたので、そういうところで見たことも伝えたい。それから、重要なのは、避難方法ですね。どこの街に行っても、ここではどういうふうに避難して、何が成功で、何が失敗だったかということを話すようにしています。新しくできた避難タワーや、高速道路に設置されている避難ステップを見せることもありますね」。

語り部タクシーを利用する人は年々減少しています。当初は毎日のように利用される方がいましたが、現在私がご案内するのは月2、3回程度です。「災害はいつどこで起きるか分からない。来た人が自分の地域に帰ったとき、役に立つような話をしたい。自分も歳なので、いつまで続けられるか分からないですが、やれるだけ続けたいと思っています」。

宮城県沿岸部情報サイト　行きたい！と 来てほしい！ の声をつなぎます。

みやぎ海べの旅案内

宮城県沿岸部を中心とした観光情報や震災関連施設、体験・学習プログラムを紹介しているwebサイトです。「語り部から震災の体験や教訓を聴きたい」「震災を記録した施設を訪れたい」等、訪問目的にそった検索ができます。

㊐みやぎ観光復興支援センター
☎022-748-7380
http://miyaumi.info

PROFILE

仙台中央タクシー株式会社 業務二課

菊地（きくち） 正男（まさお）さん

40年以上タクシーを運転するベテラン。観光タクシーの運転手としても勤務していた。仙台中央タクシーの語り部タクシーは4人乗り小型タクシーで2.5時間14,000円（税別）～。人数に合わせて、ジャンボタクシーやマイクロバス等利用可能。訪問場所や時間など、詳細は相談を。

NOW IS. vol.25 ナウイズ

発行：2018年5月11日　宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570　宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2408　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 応急仮設住宅の供与期間延長について

下記の対象市町で被災し、応急仮設住宅（プレハブ・民間賃貸借上住宅など）にお住まいの方のうち、要件に該当する方の供与期間を最長で平成32年3月31日まで延長する手続きを進めています。

延長を希望される方は、届け出が必要ですので、被災時にお住まいの市町から送られる案内をご確認ください。

【要件】
災害公営住宅への入居や防災集団移転など、公共事業による自宅の再建先は決まっているが、工期などの関係から供与期間内に仮設住宅を退去できない方

【対象市町】
石巻市、気仙沼市、名取市、東松島市、女川町

㊐県震災援護室
☎022-211-3257

02 事業者向け二重債務などの相談窓口

震災により大きな被害を受けた事業者を対象に、支援施策の紹介や事業計画の策定支援、二重債務問題への対応などの相談を行っています。中小企業者のほか、小規模事業者、農林水産・医療福祉事業者など幅広く相談を受け付けています。

詳しくは、下記へお問い合わせください。

㊐宮城県産業復興相談センター
☎022-722-3858

㊐東日本大震災事業者再生支援機構
☎022-393-8550

㊐県商工金融課
☎022-211-2744

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから！

http://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報をブログで！

今月のブログピックアップ

いわたかれん
復興フォト
岩田 華怜

仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始めました。

これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、被災地の情報を発信しています。今回は、塩竈市と利府町。「矢部園茶舗」では、復興への「覚悟」を語る矢部さんの想いを伺いました。

宮城発！
元気と食の最新情報
一般社団法人 IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は、ご当地アイドル産地直送気仙沼「SCK GIRLS」。復興メッセンジャーとしてのこれまでとこれからをご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信！復興みやぎ　SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン　NOW IS.の発行日（土日・祝日のときは翌平日）にメールでお知らせします。 NOW IS.メールマガジン で検索して登録！

NOW IS. × TBCラジオ

「防災キャンペーン」

今日の備えが未来を守る

TBC東北放送ラジオでは東日本大震災以降、毎月11日を災害への備えを見直すきっかけにするために、「防災キャンペーン」として啓発メッセージを集中的に放送し続けています。今年度、宮城県とTBCラジオがコラボし、「防災キャンペーン」で宮城県の取り組みや、「NOW IS.」を告知しています。

災害への備えを見直すことは、次なる災害で一人でも多くの命が救われ、よりよい未来へ繋がります。今後も宮城県は、防災・減災の意識を高める活動を続けていきます。

あのね！クミコ 93.5 TBCラジオ AM1260kHz FM93.5MHz

2018.5.11
Vol. 25
May, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

NOW IS.

菊地 正男
仙台中央タクシー

これは自分が伝えなければ、と。

1回の乗車時間はおよそ2.5時間。仙台駅を起点に沿岸部へ。荒浜や名取市を案内するのが通常ルートで、ときには南三陸町や気仙沼市まで車を走らせることもあるそうです。「いろいろな人を乗せます。親子で訪れる人もいます。子どもさんは、特に何も話しませんが、真剣な表情で聞いていきますね。何か感じるところがあるのでしょう」。仙台中央タクシーで語り部として勤務する菊地正男さんは、ドライバー歴40年以上。もともと、人に何かを話すのは苦手だったそうです。「この歳になって語り部をするとは思っていませんでした。でも、自分の家が流されて、避難所でいろいろな経験をして、これは自分がしゃべらないといけないな、と。それで、語り部に立候補したんです」。